

釧路南ロータリークラブ会報

第27回 例会報告 2017.2.3 通算1663回

・点

鐘

長井会長

・会長挨拶

・ロ-タリ-ソング

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」



ソングリーダー 上川原 昭会員



皆様、こんにちは。今年も早いもので1か月が経ち、今日は2月3日節分の日となりました。改めて考えてみますと、節分とは何なのかということが私自身いまひとつ解っていなかったもので、この際調べてみることに致しました。節分とは24節季（大寒・春分・啓蟄など）・5節句（七草・桃・端午・七夕・菊）など暦日のほかに、季節の移り変わりをより適格につかむための特別に設けられた暦日 節分のほかに彼岸・八十八夜・入梅・土用などの一つで各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のこと。また、「季節を分ける」ことも意味しており、江戸時代以降は特に立春（毎年2月4日ごろ）の前日を指す場合が多くなった模様です。節分に行われる豆まきですが、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊ばらいの行事が豆まきであります。宇多天皇の時代に、鞍馬山の鬼が出てきて都を荒らすのを、祈祷をし、鬼の穴を封じて、三石三升の炒り豆（大豆）で鬼の目を打ちつぶし、災厄を逃れたという故事伝説が始まりと言われてます。豆は、「穀物には生命力と魔除けの呪力が備わっている」という信仰、または語呂合わせで「魔目(豆・まめ)」を鬼の目に投げつけて鬼を滅する「魔滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあるということです。豆を撒き、撒かれた豆を自分の年齢(数え年)

・入会記念祝

上川原 昭会員 H23. 2. 4 (6年目)



の数だけ、または、自分の年の数の1つ多く食べると、体が丈夫になり、風邪をひかないという習わしがあります。使用する豆は、お祓いを行った炒った大豆(炒り豆)であり、豆を神棚に供えてから撒く地方もある。炒り豆を使用するのは、節分は旧年の厄災を負って払い捨てられるものであるため、撒いた豆から芽が出ては不都合であったためであるという。北海道・東北・北陸・南九州の家庭では落花生(「落花生は大豆より拾い易く地面に落ちて実が汚れない」という合理性から独自の豆撒きとなったそうです。雪国は理解できますが、なぜ南九州もなぜでしょうか、そこが疑問です)を撒き、寺社や地域によっては餅や菓子、みかん等を投げる場合もあります。近年になりまして恵方巻きなんていうものも流行りましたが、これは江戸末期から明治初期の頃に大阪で起こった文化であります。「恵方巻」という名称およびその風習は、1998年(平成10年)にセブン-イレブンが全国発売にあたり商品名に「丸かぶり寿司 恵方巻」と採用したことにより、2000年代以降に急速に広まりました。それ以前は「丸かぶり寿司」「節分の巻きずし」「幸運巻寿司」などと呼ばれていたことが文献で分かるが、「恵方巻」と呼ばれていたという文献類は見つかっていないということです。最近の恵方巻きの売り上げは、大分落ち込んできているらしいです。いかにもとってつけたような流行だと思っていたので、大阪以外では近々無くなるのかもしれませんが。

調べていくと、その地方や地域によって行われる行事や豆まきの掛け声が少しずつ違うことがわかり、日本は狭いようで広いなと思われました。

・幹事報告



- * 2月のロータリーレートは116円となります。
- * 国際ロータリー第2500地区2017-18年度ガバナー成瀬則之様から、イアンライズリーRI会長エレクトよりテーマが発表されたということで、国際協議会会場のサンディエゴからポストカードが届いております。テーマは「変化をもたらす」です。
- * 各クラブより2月例会プログラムの案内がきております。

・委員会報告 親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金

上川原 昭会員 入会記念祝として
 長江 勉会員 2月1日より社長退任し取締役会長就任致しました。



・本日のプログラム

「平和と紛争予防／紛争解決月間に因んで」

担当 国際奉仕委員会



世界では、武力紛争の影響によって何百万人もの子供たちが学校へ通う機会を奪われています。武力紛争下という非人道的な環境の中で生き延びるために大人の役割を担わされることにより子供時代を奪われるなど、深刻な権利侵害を経験します。激しい紛争に見舞われた国の教師は「教育が無ければ平和ありません」と、教育の重要性を強調しています。人道支援に拠出された各予算の中から教育支援に割り当てられているのはわずかであり、需要に対して大きな予算不足が生じています。国際社会は、紛争やその他の緊急事態の影響を受けた子供たちに対し、教育の機会を確保することを守らなければならないと思います。今日は、北海道ユニセフ様よりお借りしました、研修用の映像をご覧ください。



◆日本人にとっての平和とは



ずいぶん前から、ニュースで日本の反戦活動家の方が「戦争を無くし、平和を守るためには、軍隊を無くせばよい。だから自衛隊はいらない(要するに憲法 9 条を守ろう)」と仰っていました。が、私はその発言といたしますか文章の意味するところにもすごい違和感を覚えておりました(インターネットの普及により、私と同様のことを感じている方が増えている傾向にあると思います)。その違和感をよくよく突き詰めていきますと、日本人の平和に対する考え方・教え方が少しおかしいのではないか、と思う様になりました。私の子供の頃、周りの大人たちやマスコミから「戦

争の反対は平和」だと教わりました。今のマスコミや学校も「日本は平和だから戦争をしてはいけない」という言い方をします。なので、私の周りにも平和の対義語もしくは平和の反対の状況が戦争と思っている方がたくさんおられます。平和とは状況であり、戦争は手段です。もっと言えば、軍隊は道具です。さらに平和の対義語は混沌・混乱、戦争の対義語は対話・交渉といったところでしょうか(厳密に定義はできないみたいです)。したがって、平和と戦争を同列で教えるのは間違いではないかというのが、私の考えであります。

私の平和に対する理解は、世の中は個々人または国々の欲望と思惑により無秩序で混沌としており、欲望と欲望がぶつかり合う、といますか利害が衝突すると、個人間では喧嘩や刃傷沙汰になり、国家間では戦争(武力紛争)やテロとなります。それを避けるために、権威(伝統・思想・宗教・道徳観等)や権力(警察・軍隊・法律等の強制力)の存在を背景として、規律ある係争の無い状態のことが保たれている状態のことと理解しております。平和はあるものではなく、作っていくものであると思います。いくら平穏を願う教えがあっても、いくら強い軍隊がいても、いくら優秀な警察がいても、数々の宗教戦争や独裁国家の崩壊・いまだに続く国家間紛争やテロが収まらない現実を考えれば、ただ戦争や軍隊を無くせば平和が訪れる・平和が保たれるとだけ言っている人には賛同できません。現代はインターネットの出現により変化が顕著にまたより流れが速くなりましたが、新しい時代には新しい混沌・混乱が現れます。時代の変化とともに軍隊・警察組織や思想・道徳をその時代に合わせて作っていかねば平和は保たれません。

石川五右衛門も「浜の真砂は尽きるとも、世に盗人の種は尽きまじ」と言っているように、人類には、一定数の法や常識・規律に縛られない、欲望のままに行動する人々や組織・国家が出現いたします。ただ平和をお題目のように唱えている人たちの言葉は、このような人種や組織に対しては、まったく意味をなさず絶望的に無力です。その無力を自覚せずに子供に「戦争はダメ、平和がよい」と教えても意味がないと思われます。無法な人や組織に関わらない方法や、関わってしまった時の対処法を考えさせるように教育していくのが、平和な状況を維持させていくには重要であると思います。また、子供には戦

争や争いというものを善悪という感情で教えるのではなく、人と人・国家と国家はこのようになると争いの状態になると、そして、どのようにその争いを解決したかを時代背景等を交えて教えていく方がよいと思われます。

今までは日本にとって平和で良い時代でありました。しかし、アメリカが弱体化し、中国が軍事的に脅威になってきている現在、先に述べたように新しい混沌が訪れるかもしれません。これからの日本にとってどのような進路が混乱が少なく、平和な状況に入れるか、その方策を我々は考えていかなければならないのかもしれません。

「価値感」の面から

聖徳太子は、17条の憲法で日本人の一番大切にしていく価値は、「和」であるといっております。「和」というのは協調性を持って、なるべく争いを避け、話し合っ物事を進めなさいということです。2条の「仏教的考え方」より3条の「儒教的考え方」の前、第1条で「神道的考え方」である「和」が日本人の最重要徳目であると示しております。

悪い考え方をしますと、「和」というのは、話し合いでなんでも分かり合える、武力なんていらないう考え方になってもおかしくありません。これは日本人にしか通用しない考え方なので、外国から見ると「日本人頭おかしい」と思われても仕方ありません。実力(権力などの強制力)のないものが、話し合いの場につくこともできないというのが、諸外国の考え方だからです。

ですから、日本的な「和」を基準とした平和観を置いておいて、もう1度、平和という状態がどうしたら保たれていけるかを、価値感の面から再構築ければなりません。



・次回のプログラム

2月10日(金)

「歴代会長卓話」

会場 ホテルクラウンヒルズ釧路 12:30～

担当：ロータリー情報委員会

・点 鐘 長井会長
今週の会報担当：工藤ゆかり会員